

ひたちなか海浜鉄道 100周年!

はじめは、勝田駅がまだできる前。

1897年(明治30年)、常磐線が水戸～平間で開通。佐和駅が先に設置されたが、当時の勝田には駅がありませんでした。

そこで、当時の勝田村長大谷新介は、村に恩恵をと、武田に停車場(おそらく駅)の設置を日本鉄道へお願いしたところ、勝田と三浜地方(今の大洗とひたちなか沿岸)を結ぶ鉄道の敷設を条件に認める意向を示しました。

そして、大谷新介の尽力もあり、1903年(明治36年)武平鉄道(武田～平磯を結ぶので頭文字を取って武平)設立し仮免許を所得する。この武平鉄道がひたちなか海浜鉄道のおおもとです。

その後、紆余曲折を経て、1907年(明治40年)湊鉄道の名称となり、今から100年前、1913年12月(大正2年)勝田～那珂湊間の運行が開始されました。

最近の動き

湊線からひたちなか海浜鉄道と名前を変え東日本大震災の被害からも復興。

ひたちなか市も重要な交通インフラ、財産と考え平成25年度は約3,300万円の補助金を交付(経営支援や修繕へ)。

今後の動き

新駅を作る

市が関わり、平成26年10月を目指して、中根～那珂湊間に新駅を設置予定(国道245号線高架下付近を予定、国県の補助も見込む)

延伸も検討

阿字ヶ浦より先、国営ひたち海浜公園方面への延伸も検討されております。

2008年には、これまで経営を担っていた茨城交通が撤退の意向を表明し廃線もあり得ましたが、市などの支援もあり存続し、現在のひたちなか海浜鉄道となりました。

その後も2011年の東日本大震災で大きな打撃を受けましたが、市の復旧支援もあり今日も勝田～阿字ヶ浦間を結んでおります。

平成24年度決算

平成24年度の予算は総額(水道会計除く)で約881億3千万円。決算額は歳入が約873億2千万円、歳出が824億5千万円となりました。次年度への繰越額を除くと、平成24年度の実質収支額は、プラス39億2千万円でした。

●歳出決算額 合計 ¥82,445,740

¥52,796,236円

¥29,649,504

●歳入決算額 合計 ¥87,315,495

¥56,051,886円

¥31,263,609

●予算総額 合計 ¥88,127,855

¥57,135,375

¥30,992,480

■一般会計 ■特別会計(水道除く)

※予算総額は補正含む(単位:千円)

鈴木道生

3つの
誓い

1

私は、しがらみなく判断し、行動することを誓います。

2

私は、皆さまの意見をしっかりと聞き、共に行動することを誓います。

3

私は、ひたちなか市の将来の為に誠心誠意、行動することを誓います。

お問い合わせ

ひたちなか市議会議員 すすき みちお 鈴木道生

住 所 ひたちなか市東石川 3683 ベルエール A102

Tel.Fax 029-272-9028

E-mail suzuki.michio.nextjapan@gmail.com

[twitter](#) [facebook](#) もやっています。

市民の風 ひたちなか市議会レポート

鈴木みちお 特集号

ひたちなか市議会まちづくり復興調査特別委員会 副委員長・総務生活委員・議会運営委員・議会広報委員・予算委員

●プロフィール 1982年7月20日 ひたちなか市共栄町にて生まれる。

勝田保育園、東石川小学校、大島中学校、勝田高校を経て日本大学法学部卒業。

小学校時代のバブル崩壊という出来事が政治への興味を生み、中高と政治への志を強くする。

大学生時代に認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会にて学生ボランティアスタッフとして活動。

視察ツアーでミャンマーに行った際に、出会った若者たちの貧しくても未来への夢を語る姿に、世界観が大きく変わる。

株式会社ペルーナ、楽天株式会社にて勤務。2011年11月よりひたちなか市議会議員。

「新しいこと、面白いことに挑戦する」そんな人を増やしサポートする「まち」を目指し、活動中。

【趣味】野球・バドミントン・読書 【座右の銘】「一視同仁」「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」



9月議会 主なトピックス

◎平成24年度決算を認定 ◎小中学校耐震工事の入札、契約が進む ◎議会基本条例を制定

鈴木道生 8回目の一般質問を行いました。

(主な部分のみ抜粋)

1、観光振興について

観光協会と観光振興課の役割分担について主に質問。

観光協会と市の観光振興課の居所は、同じ市役所内にありとても近くにありますが、にもかかわらず、連携と役割分担、協力体制が構築されているのかについて具体例を挙げて質問しました。

例として、観光パンフレットをそれぞれが発行していることを挙げ、重複してはいないかと役割分担について質問しました。それぞれに目的があり発行しているとのことでしたが、私としてはどちらかが発行し、1つにまとめればいいのではないかと考えます。ひたちなか市は平成22年度には約348万人の観光客が訪れる県内でも有数の観光地です。重複のないようにしっかり連携して観光を盛り上げて頂きたいものです。



国立ひたちなか海浜公園



観光パンフレット

2、市内図書館について

中央図書館について主に質問。

まもなく開館より40年が経とうとしています。人口約16万を抱える本市の中央図書館そして、生涯学習の拠点として現状どうか。

特に問題点として、バリアフリー対応への限界と、年々利用者数は増加している(全国的にも図書館利用者数は増えています)が手狭ではないかと質問しました。

回答として、これからの図書館の在り方について設置する検討会で考えたいとのこと。

私としては、将来的に施設の更新を考える際は、設備の中身だけでなく、同様に老朽化した公共施設の再配置も含めて検討し、勝田駅東口地区の人の流れを活性化して東口北側地区も元気になるような夢のある新施設構想を作れたらと考えます。

